打越下池（うちこししもいけ）

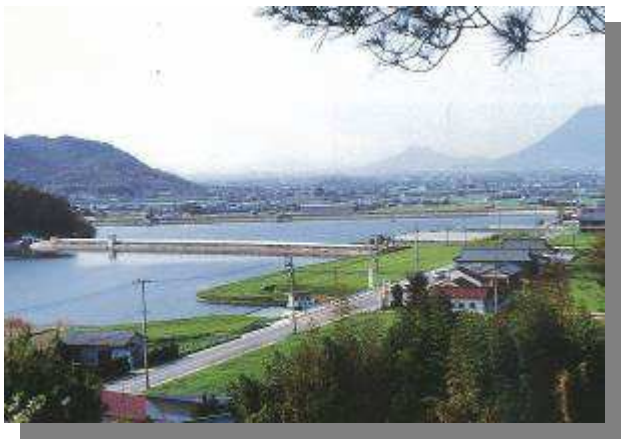
位　置　図

諸　　元

貯 水 量	249	千㎥
満水面積	3.7	ha
受益面積	230	ha
堤　　高	13.1	m
堤　　長	302	m

打越下池の築造は文政１２年（１８２９年）と云われ、当時の岡田村の大庄屋であった木村又左衛門甚三郎の手によるものです。昔からこの地域は大きな河川もなくその水利の悪さのため、長年にわたり幾つものため池が築かれてきました。甚三郎は父親の又左衛門の遺志を継いで十数年にわたり藩へ打越池の下を開いて池を創ることを請願し、築堤の許可を受けました。甚三郎は神に誓って成功を期し、自分の田を売って資金に充て、「星を戴いて出で星を戴いて帰り」の文字どおり寝食を忘れて工事に熱中しました。堤は北より東に面して４８０ｍ、高さ１３ｍから１６ｍ、断面の幅は６ｍから５５ｍ、満水面積４１，６４３㎡、また、３年間におよぶ工事期間中の延べ人夫は６５，０００人にも及ぶ大工事となりました。その功徳は池下流の碑に記されています。

その後の老朽化に対応し、昭和５０年（１９７５年）、県営老朽ため池整備事業として池の全面改修工事に計画・着手し、１１年の歳月と２億９千万円余の事業費を以って、昭和６１年３月（１９８６年）現在の姿となっています。



打越上・下池

打越下池の碑